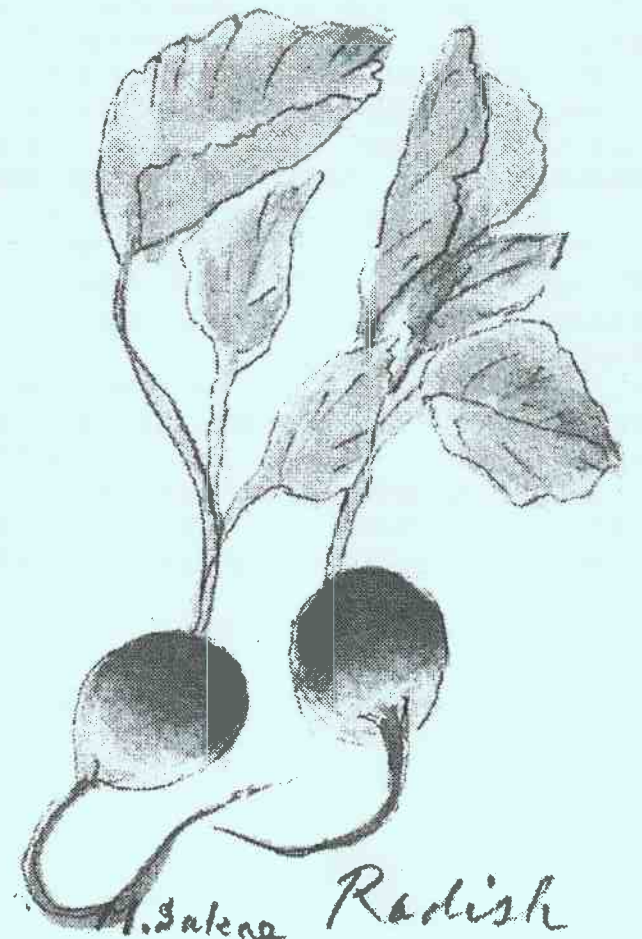


ふれあい雪谷

平成18年
あさがお号



(池の台 M. Sakae さんの作品)

母校の思い出 26 小学校時代の思い出

小池小学校に昭和50年に入学し6年間を過ごした。“モリゲ”、小中学校を通してのあだ名である。小学校入学時は“もりちゃん”と呼ばれていたが、三つ上の姉もそう呼ばれていたので変更するように言われたとか、森下の“下”を“ゲ”と読ませたとか、由来ははっきりしない。きれいな感じはしないが、“ゲ”という独特の響きは、それはそれで結構気に入っていた。

モリゲはいつも寝坊しているにもかかわらず、慌てて駆け出すこともなく悠々と登校していたらしい。朝の全校縄跳びの際は、皆が跳んでいる中これまた悪びれる風も無く校庭を歩き、早めに登校していた二つ下の妹が恥ずかしい思いをしていたと聞く。ギリギリの登校が多かったとはいえ両親のお陰で体は丈夫でほとんど欠席は無かった。記憶にある欠席は、日曜日に通っていた造形教室で、ロッカーから飛び降りて骨を折った時に1日休んだぐらいである。

5つ上の兄が半袖半ズボンで6年間通して、朝の全校集会で校長先生に褒められていたのを見て、『自分も』と真似したが根性が弱く、冬場も半ズボンは履いていたものの厚いジャンパーを着込んでしまい、校長先生には目も止めてもらえなかったのはいたしかたない。

モリゲは勉強が特にできるわけでもなく、スポーツがずば抜けているわけでもなかったが、悪戯はひときり多かった。ホームルームの反省会では毎日のように皆の前に出て涙ながらに反省していたが、何かの時間に全体で反省会をしようとなった。予想通りかなり集中砲火を浴びてこれまた落涙していた。そんな中、いわゆる普段目立たないと思われる同級生が『モリゲは自分の家に遊びに来てくれた』と発言してくれほんとに救われる思いをした。

(笹丸 森下 繁)



【編集後記】

六月に、サッカーワールドカップが開催され、テレビの前で観戦された方も多かったのではないのでしょうか。もうすぐ夏休みに入ります。夏休みに悲しい事故や事件が起きないように、地域の皆様で見守っていただきたいのです。

『ふれあい雪谷』に皆様からの身近な話題等、是非お寄せ下さい。編集委員一同、心よりお待ちしております。

(上池上 田中 紀子)

〔発行〕わがまち大田雪谷地区推進委員会

〔編集〕ふれあい雪谷編集委員会

連絡先 雪谷特別出張所

大田区東雪谷四三二一三

電話 三七二九一五一七

〔発行日〕平成十八年七月一日

通巻第六十三号

ふれあい雪谷の編集委員が替わりました。

笹丸自治会

(新) 横田 順 (旧) 小倉 英靖

よろしく願っています。

ホームページ

<http://www.city.ota.tokyo.jp/nishi/yukigaya/index.htm>

サークル紹介 32 雪ヶ谷クラブ(バレーボール)

雪ヶ谷クラブは女子の九人制バレーボールのチームです。近隣では最も古い伝統あるクラブです。

メンバーは、高校生から五十代のママさんまで十八人、幅広い年代にわたっています。また、バレーの達人・中級者・初心者・学生・主婦・看護師・会社員など、いろいろな人達がいいます。

世代や立場を超えて一つのチームとして、同じ目標(勝利)に向かって汗を流せることは、とても素敵で幸せなことだと思います。また、女性のチームですが、男性の経験豊かな指導者が三人もいて、大変恵まれた環境にあります。

東京都の家庭婦人の大会や大田区の一般の試合、その他地域の様々な大会に出場しています。歴史は長いけれど、まだまだ発展途上のチームです。少しでもレベルアップできるように、皆真剣に練習にとりくんでいます。



毎週土曜日、朝九時から十二時、主に嶺町文化センターで練習しています。興味のある方、見学大歓迎。部員大募集中です。

雪ヶ谷で 胸躍る時 珠の汗

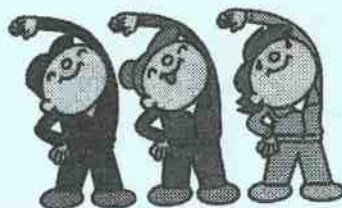
(希望 久住 幸子)

私の健康法 24

若い頃はママさんバレーで大声を張り上げ、走ったり転んだり笑い声も絶えない大好きなスポーツに汗を流しました。

私の健康法は体を動かす事です。トレスや肩こりを解消しています。今は、石川町文化センターの体育館で、多くの仲間達と週一度トリム体操をしています。足の爪先から頭の上迄先生の御指導で筋肉や関節の強化の運動、ラジオ体操、レクリエーションダンスなど仲間との交流の中で無理しないで出来る運動です。

私はトリム体操に入会して二十一年近くなります。四十代の私には、ゆっくりの体操でしたので眠



くなる時もありました。それが今では長い積み重ねが私の健康を支え、心と体のバランスを維持してくれています。ほかに仲間達の交流として、バスハイク・食事会・センター祭りなどいろいろな催し事を通じてコミュニケーションを大切にサークル活動を楽しんでいます。

近頃は趣味で外出することが多くなりました。家族の理解がなければこそ感謝しています。

(石川台 F.O)

井上 靖 のこと

氏逝いて15年。お目にかかった最後は、そう、亡くなる4か月ほど前の、残暑厳しい初秋。ご自宅の応接間です。

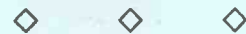
その日。うかつにも1時間弱、遅刻の羽目になりました。お住まいの、世田谷区「桜」を「桜新町」と勘違いしたものでした。冷や汗眼にしみる中でのお詫び。しかし電話口での声音は「皆さんよく間違えられます。あわてて事故起こさないように来て下さい。私は逃げも隠れもしませんからー」。なんとも温かい、でも恐縮このうえない瞬間でした。



部屋は、博物館を想わせる貴重な品々がさりげなく配置されていて、「西域物語」や「敦煌・楼蘭」・「天平の薨」・「蒼き狼」等の作品世界さながら。シルクロードを描いた平山郁夫画伯の第1作目の絵にも逢えました。「西域が私を惹きつけるんです。悠久の歴史に人間を再発見する智の作業とでもいいましょうか。そこに観る『ヒトの持つ際限のない欲望とおごり』をどうするか、答えの出ないこの問いに、私は直面し惑わしています」。静かで真摯な語りです。

傍らで、映画化もされた名作「おろしや国粋夢譚」の主人公・大黒屋光太夫の小さなフィギュア(像)が氏の声を聴いていました。江戸期の1782年。船頭の彼は、シケに遭って漂流7か月、ロシアに漂着。10年後、想像を絶する辛酸を経て帰国する物語です。氏は生き生きとした口調で「日露国交の始まりは、実は名もない幾多の漂流民からです。かの地で果てた民の絶望と望郷、いかばかりか。私は生涯の仕事として、せめて『顕彰の碑』だけでもロシアの地に建てて差し上げたいと思います。当時日本は鎖国、帰れば残酷にも重罪人扱いです。権力はいつの時代でも、民衆の労苦の真実は見ないものです」と心情を。ちなみに、昨年在「日露国交樹立150周年」でした。

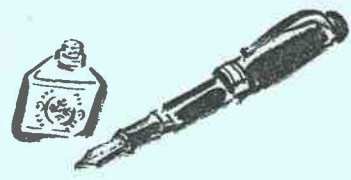
持参した、氏最晩年の長編「孔子」。師弟子の美学を軸に「弟子の語り」で編んだ大作です。その表紙裏に、あの独特な文字でサインしながら「人間にとって最も大切なことは、良き師匠を持つこと。弟子には知恩・報恩の誠を尽くす責務があるのです。弟子たちは孔子を父の如くあがめ、心から尊敬し、少しでも師に近付こうと懸命に努力しています」と。温和な顔が一転、厳粛でした。



そういえば、年初TV放映の名作「氷壁」。鶴田真由演ずる美貌の人妻・八代美那子は30歳、小説では大正14年生まれでしたね。すると?そうです、今年が傘寿です!

(小池 沼本 光史)

※傘寿(さんじゅ)……八十才(のお祝い)



ホタル観賞会

洗足風致協会、久が原・雪谷・千束の青少年対策地区委員会が合同でホタル観賞会を行います。

今回で4年目になりますが、現在ホタルは地方に行っても、なかなか観賞することが出来ない状態で、ホタルを見たこともない子どもさんも多いことでしょう。

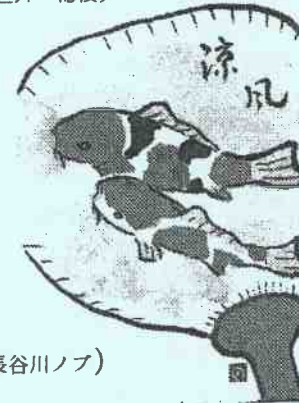
ご年配の方々も昔を懐かしんで、夏の暑い夕暮れに涼みながらお孫さん達とご家族そろって是非お出掛けになってみてはいかがでしょうか。

(東中 直井 穂枝)

日時 7月22日(土)
午後7時30分より
(雨天の場合翌日に順延)
場所 洗足池
水生植物園近辺



(挿絵・石川台 長谷川ノブ)



美しい環境づくり② 小池の再生に期待する

わが家のすぐ近くに、小池という池がある。長く釣堀として親しまれてきたが、2004年に70年ほどに及んだ歴史の幕を下ろした。

池は大田区の所有なので、区がこの池をどうするかは、特に周辺住民の大きな関心事になっている。区も当然その辺りの事情は承知しており、去る1月末に池周辺の住民に呼びかけて、意見交換会が開かれた。大方の住民の気持ちとしては、池はそのまま残しながら、環境のよい場所にしてほしいわけだが、その気持ちの中味は十人十色で、随分温度差があるようだ。多くの人が楽しめる公園を希望する人もいれば、逆にできるだけ人が来ない場所にしてほしい人もいる。意見にはどうしても地域エゴ・住民エゴが出がちだが、直接自分達の生活に影響を及ぼすわけだから、それも無理からぬところだろう。

池が新しい姿になるのは、約2年後とのことだ。区の意気込みからして、恐らく美しく生まれ変わるものと期待しているが、問題はその先だ。これが本当に良くなるか否かは、利用者の心次第だからだ。良いもの美しいものを汚さない心は、生まれた瞬間から、親がしっかりと身につけさせなければならないものだ。この池がぜひその心を育てる施設になってほしいと私は願っている。

(池の台 稲垣 祥一)

自治会リレー随筆

好奇心

寿命87歳の時代。夫を見送り、自分なりの平凡な毎日を送ってはいるが、75歳を過ぎ80歳の峠が見えてきた。そろそろこの辺で下山するか。趣味も色々持ち、暇は無いがまだまだ挑戦してみたいことは山程ある。

自分流に考えれば、人は死を迎える時までが、その人の人生。高齢者がよくつぶやく「もう年だからね、今更もったいない」。いとも簡単に自分を捨ててしまうが、それこそがもったいない。少し考え方を変えれば、生き甲斐人生が待っているのに。

そこで私は、思い切って好奇心電車に乗ることにした。行き先はゆとり駅。車窓からの眺めは緑豊かな田園風景、ところどころに点在する、実践・努力・勇気などの花々が私に手を振る。少し手前の希望の丘公園で下車。丘に向かって登ると美しい塔が目に入った。時刻を知らせる鐘には感動と刻まれていた。急ぐこともあるまい、しかし今だから出来る、はやる胸を抑え、次の生涯駅に向う。当って砕けろ、失敗は成功の元。だからと言ってケ・セラ・セラではない。とにかく、好奇の目を向け、物事に関心をもち、好きから挑戦してみるのだ。

すべては自分流で楽しめばよい。仮に今日が人生最後の日と宣告されたら、私は悔を残さず、穏やかな眠りに就きたいと願うだろう。日々の生活に希望をみつけ、ゆとりのある毎日でありたい。挑戦・実践・努力・満足のプラカードを抱え、だれはばかりことなく、私流の青春街道を走り続けたい。好奇心電車には終着駅は無いのだから。自分をほめ、自分を愛し、自分を育てよう。

(東雪 石山 茶目子)



第6回平和祈念コンサート

8月15日 大田区民ホール アプリコ 大ホール 14:00 開演
お問合せ●コンサート実行委員会事務局 5744-1480

俳句

七月を詠む

もどかしき

夏の雲 切り裂く剣の 大道芸

梅雨の繕い 糸切歯

お知らせ

雪谷石川自治会長が替わりしました。

(新) 近藤 忠夫 さん
(旧) 長谷川 健 さん

四月一日付けで雪谷特別出張所の所長が替わりしました。

(新) 根本 勝司 (旧) 町田 達彦
よろしく願います。

この情報紙は古紙100%の用紙を使用しています。